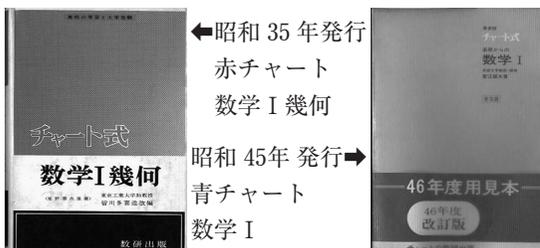


チャート式数学参考書の変遷 (1) (全 2 回)

数研出版 編集部

大正末期、「数研出版」の母体となる教育事業体「数学研究社高等予備校」が創設され、1923年(大正12年)出版事業の原点となる雑誌「受験数学」を11月に創刊しました。1929年(昭和4年)現在の「チャート式」の源流となる『チャート式代数学』『チャート式幾何学』が発行され、当時の受験生の絶大な支持を得るに至りました。しかし、太平洋戦争が勃発、戦況が深刻化することで継続的な書籍発行が不可能な状態となりました。戦後、1952年(昭和27年)、発行の途絶えていた「チャート式」の発行に至りました。なお、今でこそ数学の「チャート式」といえば多くのシリーズが発行されていますが、昭和30年代中頃までは数学の「チャート式」は『赤チャート』のみでした。『赤チャート』は入試対策を重視、レベルが高く、日常学習で使うには難しいという意見も聞かれるようになりました。そこで、1964年(昭和39年)、日常学習に使える参考書として『基礎からの数学』シリーズ、現行の『青チャート』シリーズが企画・発行され、「赤・青」の2シリーズ体制となりました。

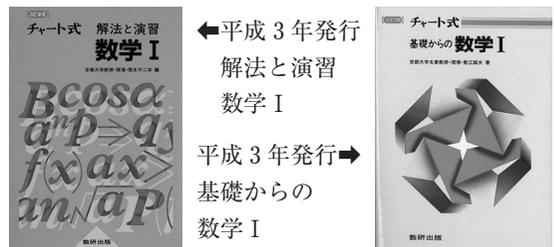


『青チャート』発刊後、昭和40～50年代にかけて、大学受験熱が高まったことや生徒の多様化もあり『青チャート』でも難しい、という意見が聞かれる

ようになりました。そこで青よりも易しい『解法と演習』シリーズ、現行の『黄チャート』を1977年(昭和52年)に、『基礎と演習』シリーズ、現行の『白チャート』を1979年(昭和54年)に発行しました。



カバーデザインも特定の色で表されてはおらず、当時は『黄チャート』、『白チャート』と呼ばれていなかったようです。時代が平成になってもその状況は変わりません。『解法と演習(黄チャート)』のカバーは水色、『きそ(青チャート)』のカバーは緑色でした。



このような状況ですと『解法と演習』→『青チャート』などという誤解が生じるような気もしますが、当時はそのような誤解はあまりなかったようです。(次号に続く)

「数研出版 100 周年記念サイト」
100 周年を記念してサイトを開設！
<https://www.chart.co.jp/100th/>



数研出版 100 周年を記念して、『青チャート I + A』の 100 周年記念カバーを制作しました！

表面：特別デザイン、裏面：通常デザインのリバーシブル仕様となっています。

※2024年1月出荷分から、上記特別仕様カバーで納品いたします(冊数限定)。

